



WASEDA ROPE

## 「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

### 岩手県教員セミナー兼ワークショップ 報告書

2017（平成29）年2月10日（金）に「スポーツ庁 オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」岩手県教員セミナー兼ワークショップが開催されました。今回は、岩手県教育委員会主催の第60回 岩手県教育研究発表会の体育／保健体育分科会に合わせて実施されました。桐蔭横浜大学の佐藤豊教授、岩手県教育委員会の鈴木雅孝氏、岩手県立一戸高等学校の吉田哲先生、本センターの吉永武史の4名の講師が、オリンピック・パラリンピックの価値等について講演されました。会場には、岩手県教育委員会の方々や岩手県内の公立学校教員等59名にご参加いただき、下記の要領で開催されました。

#### 【開催概要】

日時：2017（平成29）年2月10日（金）13時15分～16時25分

会場：岩手県立総合教育センター

プログラム：

13:15～13:20 オリエンテーション

13:20～13:40 講演①（岩手県立一戸高等学校 吉田哲先生）

13:40～13:55 協議

13:55～14:10 助言（岩手県教育委員会 馬場隆太氏）

14:10～14:40 講演②（岩手県教育委員会 鈴木雅孝氏、本センター 吉永武史）

14:40～14:50 休憩

14:50～16:20 講演③（桐蔭横浜大学 佐藤豊教授）

16:20～16:25 閉会

今回の分科会のねらいは、「実践発表や研究協議を通じて、小中高の現状や課題、指導実践成果の共有を図るとともに、授業改善についての理解を深め、岩手県の体育・保健体育教育の振興に資する。体育授業における『オリンピックの3つの価値』『パラリンピックの4つの価値』等の指導のあり方、保健授業における『思考・判断』の評価のあり方について、校種（小・中・高・特支）の枠を超え、実践発表、協議、講演を通して考える機会とする」というものでした。

講演①では、「保健授業における生徒の思考力へのアプローチ：資料を活用した情報解釈を通じて」というテーマで、岩手県立一戸高等学校の吉田哲先生より実践報告がありました。吉田先生の講演後には、岩手県教育委員会の馬場隆太氏の進行のもと、児童・生徒の「思考・判断」を促す保健授業の方法について、参加者一同で協議を行いました。



吉田哲先生



馬場隆太氏

講演②では、「学校におけるオリンピック・パラリンピック教育の推進に向けて」というテーマで、岩手県教育委員会の鈴木雅孝氏と本センターの吉永が講演を行いました。はじめに、本事業が、スポーツ庁の推進する「スポーツ・フォー・トゥモロー推進プログラム」の一環として行われている点、また、オリンピック・パラリンピック・ムーブメントを全国に波及させることが主な目的である点について紹介しました。その後、本センターが今年度に行ってきた岩手県の小・中・高等学校での実践を通して、児童・生徒たちが、夢や目標をもち、努力することの大切さについて学ぶ機会となった点等について、実践校で行ったアンケート調査の結果をもとに報告しました。講演のまとめとして、オリンピック・パラリンピック教育を通して、スポーツの価値を享受すること、共生社会の実現に必要な態度を形成することが重要であると述べました。



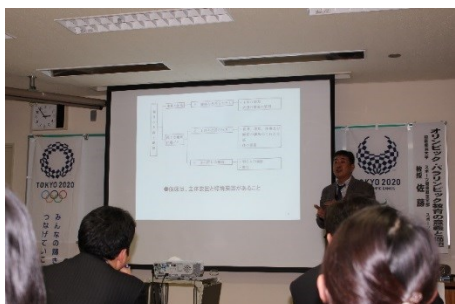
鈴木雅孝氏



本センター 吉永

講演③では、「オリンピック・パラリンピック教育の意味と価値」というテーマで佐藤先生が講演されました。佐藤先生は、小・中・高等学校でオリンピック・パラリンピック教育を行っていくにあたって、児童・生徒たちから出てくると予想される質問を掲示し、それらに対して佐藤先生自身の回答を示していく形でお話をすめられました。たとえば、「オリンピック・パラリンピックの種目に入らないスポーツはやっても意味がないのですか？」という問いに対して佐藤先生は、オリンピック・パラリンピックで採用されている種目に限らず、様々なスポーツに取り組むことに価値がある点を強調されました。また、「スポーツは、戦わないと価値がないのですか？」という問いに対しては、オリンピック・パラリンピック教育は、スポーツの多様な価値を伝えることが大切であるため、公正に競争するだけでなく、表現したり、協働したりすることなどもスポーツの重要な意義や価値であるという点を児童・生徒たちに教えていく必要があると述べられました。最後に、「オリンピック・パラリンピックのボランティアと地域の運動会のボランティアは意義や価値が違いますか？」という問いに対しては、何のために「支えるスポーツ」に取り組むかが重要であり、社会貢献や生きがいとして、あるいは、自己実現として「支えるスポーツ」に取り組むのであれば、オリンピック・パラリンピックに限らず、あらゆる競技会のボランティアに意義や価値があると述べられました。また、スポーツの発展・振興は、多くの人々のサポートによって支えられていることを力説され、講演をまとめられました。

分科会に参加された多くの現職教員や教育関係者の方々もオリンピック・パラリンピック教育の重要性について深く考えるきっかけになったようでした。



佐藤豊教授



会場の様子